進撃の巨人～東洋からの来訪者～

阿山 生

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

進撃の巨人〜東洋からの来訪者〜

【Nコード】

N41180

【作者名】

阿山 生

【あらすじ】

人を襲う巨人がはびこる世界

人類は怯え暮らし、戦っても数を減らしていく

しかし、東洋のある場所の者達は戦う術を持っていた

だが、対等以上に戦える彼らでも

依然として巨人の謎は解明をできないでいた

この物語はある者達が漂流することから始まる。

プロローグ（前書き）

最近、初めて「進撃の巨人」を読んで、強い衝撃を受けたので書いてみました。

プロローグ

我々以外の人が居り、繁栄をしていた時代

世界に巨大な人の形をした恐ろしい生き物「巨人」が突如として現れた

巨人は人を餌として、あらゆる場所にいる人に襲い掛かった

人は当然、戦った………戦って、戦って、戦った

しかし、人の攻撃など全く意味がなかった

巨人は強く、大きく、そして多かった

人は、なすすべもなく、餌と化し滅びを待つだけだった

しかし……しかし天は見捨てなかった

天よりの使者が助けるために巨大な鉄の船で降りてきたのだ

使者達は我々の前に立ち、巨人と対等以上に戦って倒した

それから、巨人と使者の戦いは幾度も、幾度も起こった

幾度の戦い後、使者の方に限界がきた

彼らにとっても巨人は強大だった

使者はせめて我々だけでも、と鉄の船に迎え入れてくれた

同時に、巨人と戦える力と知を与えられた

自分達で巨人と戦えるようにと

こうして我々「カグヤの民」は天の恩寵を与えられ、唯一残った人達となった

歴史書「カ

グヤ」天の使者達より

漂流者

ガサッ

地面に草が生い茂り、ドンと直立不動に立っている長い木々なる森。

その中で草を踏みしめて歩く者がいた。

その者は頭に兜、胴に鉄の服、手に籠手こてと足に具足、他に関節部分や肩の部分などに滑らかな鉄甲を付けた鎧武者の格好をしていた。

面を付けた顔で周りを見回しながら武者はそう呟いた。

「行けども、行けども森か・・・、結構でかい島に漂流したんだな」

武者は大きな岩に腰掛けてため息を吐いた。

「はあ」

ドスン

「ハッ！」

ドスン

「まさか」

彼は立ちあがって音のした方向を凝視した。

そして、遠くの木々の間から巨大な生物を確認する。

有に15mある姿は2本脚と2本の手があり、まるで人間のようであるが、服を着ておらず、人間にあるはずの生殖器がなく、極めつけは顔が歪な表情で固まっていることで、根源的な恐怖を抱かせ

る。
「……………きよ、巨人」

巨人と呼ばれた生物は即座に、武者に向かって走り出てきた

茫然としていた武者が気がついたときには、巨人の手がすぐ近くにまで伸びてきていた。

もう間に合わず、捕まえられてしまう。

普通な（・）ら（・）

「ッ！！」

一瞬、鎧が光り、あり得ない早さで後ろに大きく飛んで回避した。

すぐさま、武者は背中の中の刀を抜いて、構えた。

（早く、早く殺すんだ！）

その構えは刀を両手で横手に持ち、腰の後ろにまで回した。

（集中！！）

その瞬間、刀の刀身が先ほどの鎧のように光りだした。

(狙いは首の根元!!)

およそ刀の長さから見ても届きそうもないのに巨人に向かって切り上げた。

その瞬間

ズバツ!!

巨人は首の根元から横腹までバツサリと周りの木々を巻き込みながら、寸断され、倒れた。

ドッスン!!

「がはあ! ハア、ハア、ハア」

武者は体を屈めるながら、息を切らしている。

(焦って、結構消耗してしまった)

(一応、覚悟決めていたのに、情けない)

刀を戻しながら、顔を倒した巨人へと向ける。

ジュウウウウウウウ

絶命した巨人は体中から煙を出しながら少しずつ消えている。

肉が消え、骨が消え、そして内臓が消えていった。

「気持ち悪い」

それに嫌悪感を吐きだし、武者は頭を下げて考える。

(もう探索を切り上げてもいいよな。 巨人がいるってことが分かっただけでもいいんだし)

「よし、戻ろう!」

そう言いながら、勢いよく顔上げた。

ドスンッ! ガサッ!

「ん?」

振り向くと様々な大きさの巨人がこちらをジッと舐め付くように見ていた。

・ ・ ・ ・ ・

武者は震えながらゆっくりと振り向くと、もと来た道を走りだした。

そのあとを巨人たちは駆け足で両手を前に出しながら追いかけていく

「うあああああ！　く、来るなああああああ！　！！！！」

鎧を鈍く光らせながら、常人の何倍もの早さで木々を避けながら逃げる。

（なんで俺、今こんなところにいるんだろう！？）

必死で逃げ続けながら、武者はこれまでのことを思い返していた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4118o/>

進撃の巨人～東洋からの来訪者～

2011年4月3日17時13分発行